

2024 年度活動計画

<SRID 創立 50 周年記念事業>

- SRID50 周年の活動年表を作成し、1970～1990 年代の活動記録や写真を年代順に編纂して、ホームページで公開する。(活動年表は参考1を参照。)
- SRID Journal 50 周年記念号を発行する。50 周年に関するエッセイや 50 周年年表による SRID 活動報告等の関連記事を含める。
- 50 周年記念フォーラムを 10 月か 11 月に開催する。創立時の会員を中心とする対談や、参加者全員による「3 分スピーチ」などを企画する。
- 50 周年記念サロンを夏に開催し、SRID 活動の原点であった過去のサロンを再現する。

<総務>

- 毎月 1 回幹事会を開催し、議事録を会員に配信する。
- 幹事会の協力を得て、ニューズレターの年 8 回程度の発行を目指す。「自論公論」「イベントの概要報告」「新会員紹介」などの定例の記事の他、会員相互の情報交換や近況報告を兼ねて、より多くの会員に投稿を呼びかける。
- SRID 創立 50 周年記念行事が円滑に進むよう企画運営に力を入れる。(山下)

<広報>

- 定期的に HP を更新し、年に 2 回 SRID ジャーナルの発行を支援する。
- Facebook など各種メディアにより SRID 活動の全体的プロモーションを行う。
- 必要に応じてパンフレット・案内書の印刷、幹事の名刺作成などを行う。
- 50 年間の SRID の活動を記録した電子媒体を Homepage に掲載する。(山岡)

<懇談会>

- SRID 非会員も参加できる公開イベント。国際開発のベテランのみならず、国際開発に興味のある学生や、すでに国際開発分野で働いていてさらなるステップアップを目指す若い世代などの幅広い参加者を対象に、国際開発に関する時宜を得たテーマについてその分野のエキスパートに講演を頂く。そして、講演後に十分な質疑応答の時間を設けることで講演者も含めた全参加者が共に考える機会とする。
- 懇談会のテーマと回数は登壇可能な講演者に合わせてフレキシブルに対応するが、国連関連と世界銀行などの国際開発金融機関関連を各 1 回、その他国際開発関連を 2 回、合計 4 回以上の開催を目指す。
- その利便性よりオンライン開催は続けるので、対面のネットワーク懇親会は開催できない。しかし、懇談会を通じて、キャリア開発事業や SRID ジャーナルを含めた SRID の活動に対

する非会員参加者の認知度を高め、キャリア開発塾カウンセリング申込者増や SRID ジャーナル読者登録者増、さらに SRID 新規会員増に繋げる。

- ・ 懇談会の成功は魅力ある登壇者探しがキーであり、会員の皆様には、登壇の自薦や登壇可能な知り合いの方の紹介をお願いしたい。(小林_文)

<フォーラム>

- ・ 2023 年度は Zoom による第 6 回フォーラム開催を実施し、多くの会員の参加を得ることができた。2024 年度は SRID 創立 50 周年記念フォーラムとして、会員以外の関係者の参加も含め、ハイブリッドで開催する。開催の時期は 10 月か 11 月を優先して検討する。
- ・ プログラムとしては、第 1 部で創立時の会員を中心に 2~3 名により設立の意図、初期の活動につき対談を行うこと。第 2 部では参加者全員が「SRID の 50 年に寄せて」今後の活動に資するようなテーマで順次発表する、といった「3 分スピーチ」を行うことなどを検討する。提案者である中島千秋会員を担当役員に加える(神田)。

<SRID ジャーナル>

- ・ 2024 年度は SRID ジャーナル担当の編集委員 7 名(佐藤桂子、高橋一生、玉置佳一、中島千秋、福田幸正、山岡和純、湊直信)で企画・編集を行う。7 月に第 27 号、2025 年 1 月に第 28 号を発行する予定である。尚、第 27 号は SRID 設立 50 周年記念号とし、50 周年記念にふさわしい内容を含む記事も掲載する。
- ・ SRID の強みの一つは外国語に堪能な会員が多いことである。世界に向けての発信をどの様に行うかということは SRID ジャーナルの課題でもあった。今後、何らかの形で英語での発信も行うこととしたい。具体的な方法は検討中である。(湊)

<キャリア開発事業>

- ・ 2021 年度に改編された事業内容に沿って、SRID キャリア開発事業の活動として以下の 8 項目の活動を実施する。とりわけ、高校生、学部生等今後の進路を決める段階にある若い世代に対する開発分野のキャリア説明会、キャリア開発の特定な課題に関するオンラインフォーラム、個人カウンセリングに事業の重点を置いて、他の事業との連携を強化する。
- ・ 2024 年度以降、IDPC は隔年での開催とし、国連機関と MDBs を同時にカバーする。管理業務はできる限りマニュアル等を作成したうえで、補助者として学生アルバイトを雇用して担当者の負担を軽減する。(鈴木)

- ① 高校生、学部生に対する開発分野のキャリア、及び SRID キャリア開発事業の説明
- ② キャリア開発カウンセリング
- ③ SRID 講師の研修
- ④ 開発分野で働く女性のためのフォーラム等キャリア開発の特定な課題に関するオン

ラインフォーラム

- ⑤ 出張講座（要請ベース）
- ⑥ ロスターの作成・運用
- ⑦ 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携（要請ベース）
- ⑧ ニュースレター「SRID キャリア開発」の発行（9月と3月の2回）

<サロン>

2024年度はSRID創設50周年記念の特別企画として、懇親会を兼ねた対面式サロンを復活させ、SRIDの原点であったかつてのサロン活動を振り返る。（山下）

<勉強会>

2024年度も「日本の開発協力政策に係る勉強会」を継続するとともに、会員から新たなテーマについての勉強会の提案がある場合には、3名以上の会員有志が内部規約に基づいて「企画書」を提出し、幹事会の承認を得て開設することとする。（松田）